

2025年3月期第2四半期 連結決算概要

キオクシアホールディングス株式会社

2024年11月8日

注意事項

将来に関する記述は、当社が現時点で把握可能な情報から判断した想定および所信に基づくものであり、多様なリスクや不確実性（経済動向、市場需要、半導体業界における激しい競争等がありますが、これらに限られません。）により、実際の結果とは異なる可能性があるのでご承知おきください。また、当社は本資料上の将来予想に関する記述について更新する義務を負うものではありません。

本資料に記載されるメモリ市場の見通し等に関する情報は、現時点で入手可能な情報に基づいて作成しているものであり、当社がその真実性、正確性、合理性及び網羅性について保証するものではありません。

なお、本資料は、当社の2025年3月期第2四半期連結決算概要の提供のために作成されたものであり、国内外を問わず、当社の発行する株式その他の有価証券への勧誘を構成するものではありません。

本文に掲載の製品名やサービス名は、それぞれ各社が登録商標または商標として使用している場合があります。

業績概要¹

[億円]	25年3月期	25年3月期	対前四半期
	1Q	2Q	
売上収益	4,285	4,809	+524
営業利益	1,259	1,660	+402
マージン	29%	35%	+5pt
当期純利益	698	1,062	+365
マージン	16%	22%	+6pt

補足情報

減価償却費及び償却費 ²	785	792	+7
PPA影響額 ^{3, 4}	▲3	▲3	+0
法人所得税費用	300	430	+130

1. 連結・IFRSベース
2. 営業利益に減価償却費及び償却費を加算したものが、当社グループのキャッシュベースの収益性を示す指標であるEBITDAとなります。当第2四半期におけるEBITDAは、営業利益1,660億円に減価償却費及び償却費792億円を加算した2,452億円となりました。
3. 過去の企業結合に伴い発生したPPAによる営業利益への影響額です。

4. 営業利益からPPA影響額及びその他の一過性の損益を除外したものが、当社グループの恒常的な経営成績を示すNon-GAAP営業利益となります。当第2四半期におけるNon-GAAP営業利益は、営業利益1,660億円からPPA影響額▲3億円を除外した1,663億円となりました。同様に、Non-GAAP当期純利益は、当期純利益1,062億円からPPA影響額▲3億円を除外した金額から税金調整額を差し引いて1,064億円となりました。

ハイライト (1/2)

足元の実績及び動向

	25年3月期 1Q	25年3月期 2Q
出荷量 ¹ (QoQ)	10%台前半の 増加	10%前後の 増加
販売単価 ¹ (¥, QoQ)	20%前後の 上昇	1桁%台半ばの 上昇

1. 記憶容量ベース

- 第2四半期連結会計期間は、需給バランス改善による販売単価上昇と、エンタープライズSSDを中心としたフラッシュメモリ出荷量の増加により、増収増益となり、売上収益・営業利益共に過去最高を更新した
- ドルベースの販売単価は1桁%台半ばの上昇となった

製品開発・技術開発

- 業界初のQLC技術を採用したUFS4.0組み込み式フラッシュメモリ製品の量産を開始
- クラウドおよびハイパースケールデータセンター向けPCIe 5.0対応NVMe EDSFF (Enterprise and Datacenter Standard Form Factor) E1.S SSDのサンプル出荷開始
- 12月に開催される国際会議IEDM2024において、新規メモリ技術に関する3件の論文が採択

ハイライト (2/2)

市場動向及び見通し

- AIの活用に伴うデータセンター、エンタープライズ向け大容量ストレージ需要の高まりや、AIを搭載したPC・スマートフォンやAI関連サービスの普及への期待等を背景に、中長期的なフラッシュメモリ市場の成長が引き続き見込まれる
- PC・スマートフォン向け需要は、季節性要因に加えて顧客の在庫が高水準であるため短期的に弱含むが、その後、AI搭載モデルの拡大、メモリ搭載容量の増加及びPCのオペレーティングシステム更新に伴う買い替えにより需要回復が期待される
- エンタープライズ・データセンターSSDの需要は、AI需要により伸長している。AI用途での大容量SSDへの高い需要に加えて、一般サーバーの需要増加も見込まれる
- メモリ業界において、需要の成長に合わせた規律ある投資が継続しており、需給バランスは安定的に推移する見込み
- 需要に沿った適切な生産水準の維持と、販管費と製造コストの管理により、今後も効率的な事業運営に努める

KIOXIA